

2008 PC CONFERENCE シンポジウム2

【発表概要】

「Squeak を用いた文学部でのプログラミング教育」をテーマに、「アルゴリズムとプログラミング」という科目のなかでプログラミング教育を行い、文系学生に対して手続き的思考トレーニングを試みている。こういった授業内容を構想した理由は、最近の文系学生が次の点を課題として抱えているからである。

- ・ 記号やイメージを操作する抽象的思考
- ・ 手順を構築すること
- ・ ものごとを構造化すること
- ・ 他者とのコミュニケーション

これらの問題を学生自らの手で克服するために、Squeak を用いたプログラミング教育とともに、ゲーム作品作成のためのプロジェクト型協働学習を実施している。学生たちは、演習を通して「段取り」「手順の構築」を習得し、手続き的思考のためのトレーニングを行う。このようなスキルは、将来コンピュータ関連の仕事に就かなくても、一般社会の中で重要な役割を果たすであろう。学生には、よりよい情報社会の担い手になってほしいと願っている。

早稲田大学高等学院／大学院教職研究科 武沢護, “2008 PC CONFERENCE シンポジウム2 報告「構成主義による情報教育」”, 「コンピュータ & エデュケーション」Vol. 25, pp. 62-63, 2008.